芸　　術

1　学習評価の改善・充実

(1) 学習評価改善の基本的な考え方

新学習指導要領において、芸術科が育成を目指す資質・能力は「芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力」とされた。その上で、具体的に育成を目指す資質・能力を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱から、次のように示された。

(1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。（**知識及び技能**）
(2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。（**思考力、判断力、表現力等**）
(3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。（**学びに向かう力、人間性等※１**）

このように、育成を目指す資質・能力が三つの柱で整理されたことに伴い、観点別学習状況の評価も「(2) 評価の観点及びその趣旨」に示すように３観点によって行われるように整理された。このことにより、指導と評価を一体的に行い、生徒の学習改善や教師の指導改善に生かしやすくなったと言える。また、学習活動に当たっては、これら三つの柱は深く関わり合っており、相互に関連付けながら育成することが重要であるとともに、評価においても、３つの観点の関連性を踏まえて行う必要がある。

(2) 評価の観点及びその趣旨

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度(※2)
音　楽	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
美　術	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
工　芸	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な工芸の制作をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて制作方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考えるとともに、思いや願いなどから発想や構想を練ったり、工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	工芸や工芸の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
書　道	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

※１「**学びに向かう力、人間性等**」のうち、感性や思いやりなどについては、評価や評定になじまないため、観点別学習状況の評価は行わず、生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について、個人内評価として行い、※２「**主体的に学習に取り組む態度**」については評価、評定を行う。

(3) 観点別学習状況の評価についての実施上の留意点

前項で示した評価の観点の趣旨に基づき、観点別学習状況の評価について説明する。なお、音楽、美術、工芸及び書道の各科目における評価の具体例については、２(1)～(4)で示す。

【指導と評価の一体化を図る学習評価の実現】

ア　適切な「指導と評価の計画」の作成

生徒の学習改善や教師の指導改善につながる学習評価を行うためには、題材の目標、学習活動等に応じて「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点の趣旨を生かしながら、適切な「題材の評価規準」を作成するとともに、評価場面や評価方法等を盛り込んだ「指導と評価の計画」を作成する。

イ　評価場面の精選

学習評価は、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが大切であり、観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として、題材など、内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要である。例えば、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、題材全体を通して位置付け、発言や記述、行動観察等から生徒の学習状況を捉え、学習活動に粘り強く取り組んでいるか、自らの学習を調整しようとしているかを継続的に見取りながら、生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすようにする一方で、学習状況を記録に残す場面については、題材の最後のみに設定し、学習の振り返りの記述の内容を加味しながら評価するなどが考えられる。

ウ　評価方法の工夫

それぞれの観点における評価は、各教科等の特質に応じて、多様な方法を適切に取り入れて行うことが大切である。中でもノートやワークシートなどは単に教師が評価資料として用いるにとどまらず、生徒が学習課題や学習内容などを確認したり、自らの学習状況や進歩の状況などを把握したりするために活用できるように工夫することが大切である。

エ　「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

学習評価は、生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることが大切である。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、生徒の資質・能力を確実に育成することが求められる。芸術科においては、生徒が、音楽、美術、工芸及び書道の各科目の「見方・考え方」を働かせることを通して、より質の高い深い学びにつなげることができるという視点から、生徒が各科目の「見方・考え方」を働かせることができるような場面設定や発問など、効果的な手立てを講ずるなどの指導の改善を行うことが重要である。

【観点別学習状況の評価のポイント】

ア　知識・技能

各教科等における学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価するとともに、それらを既有の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。

イ　思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価するものである。そのためには、前述の「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をする中で、生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設計するなどした上で、指導・評価することが求められる。

ウ　主体的に学習に取り組む態度

単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するということではなく、知識・技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて、粘り強い取組を行おうとしている側面と、粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面を評価するものである。

(4) 観点別学習状況の評価の総括の進め方

これまでの内容を基に、題材における観点別学習状況の評価の総括から、学期末における観点別学習状況の評価の総括までの進め方の例を示す。

技能の評価を重視した題材１（表現領域）における観点別学習状況の評価

	記録１ 知	記録２ 技	知・技	記録３ 思	記録４ 態
生徒ア	B	B	B	A	A
生徒イ	A	B	B	A	B
生徒ウ	B	A	A	B	B
生徒エ	A	C	B	B	B

総括

「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」については、評価する場面をそれぞれ１度に精選しているため、そのまま題材の評価とする。

この題材の場合、記録に残す評価を「知識」に関して１回、「技能」に関して１回設定したため、題材の評価については、この２点を総括する必要がある。例では、知識と技能のうち、技能をより重視した題材であるため、生徒イのようにＡＢの場合と、生徒ウのようにＢＡの場合で生徒ウの総括の方が高くなっている。

生徒アの観点別学習状況の評価状況

【評価結果のＡ、Ｂ、Ｃの数を基に総括する例】

	知・技	思	態
題材１	B	A	A
題材２	A	B	B
題材３	C	B	A
総括	B	B	A

３回評価を行った結果が「ＡＢＡ」ならばＡ、「ＡＢＢ」ならばＢと総括することが考えられる。「ＡＡＢＢ」の総括結果をＡとするかＢとするか等、同数の場合や３つの記号が混在する場合の総括の仕方については、あらかじめ各学校において決めておく必要がある。

【評価結果のＡ、Ｂ、Ｃを数値に置き換えて総括する例】

	知・技	思	態
題材１	B (2)	A (3)	A (3)
題材２	A (3)	B (2)	B (2)
題材３	C (1)	B (2)	A (3)
総括	B (2.0)	B (2.3)	A (2.7)

・Ｃ＝1、Ｂ＝２、Ａ＝３と数値化し、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」それぞれについて平均を求めたものが、総括の（　）内の値である。例えば、Ｃ＜1.5≦Ｂ≦2.5＜Ａとするなど、あらかじめ決めておき、総括として用いる。

生徒アの観点別学習状況の評価の評定への総括

観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をＡ、Ｂ、Ｃの組合せ、又は、Ａ、Ｂ、Ｃを数値で表したものを総括し、その結果を５段階で表す。

【Ａ、Ｂ、Ｃの組合せで総括する例】

5	A	A	A
4	A	A	B
3	A	B	B
	A	B	C
	B	B	B
	A	C	C
	B	B	C
2	B	C	C
1	C	C	C

Ａ、Ｂ、Ｃの組合せから評定に総括する場合、各観点のＡ、Ｂ、Ｃの数の組合せから適切に評定することができるようあらかじめ各学校において決めておく必要がある。

【Ａ、Ｂ、Ｃを数値で表したものを総括する例】

5	4.5
4	3.5
3	2.5
2	1.5
1	

Ｃ＝1、Ｂ＝３、Ａ＝５と数値化した場合、生徒アの総括はＢＢＡなので、（３＋３＋５）÷３≒3.67となる。これを、下の不等式で換算すると、評定は４となる。

※ [1]＜1.5≦[2]＜2.5≦[3]＜3.5≦[4]＜4.5≦[5]

観点別学習状況の評価結果において、Ａ、Ｂ、Ｃで表された学習の実現状況には幅があるため、機械的に評定を算出することは適当ではない場合も予想される。

2　新学習指導要領における指導と評価の計画例

新学習指導要領を踏まえた具体の学習指導計画について、科目別に示す。

(1) 音楽Ⅰの計画例

題　材　名	楽曲の特徴を生かして、リズムアンサンブルの表現を工夫しよう
内容のまとまり	「Ａ表現」(2)器楽　及び［共通事項］(1)
使 用 教 材	「クラッピングカルテット　第１番」(作曲：長谷部匡俊)
題材の目標	(1) 様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な他者との調和を意識して演奏する技能や、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付ける。 (2) リズム、テクスチュアを知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもつ。 (3) リズムアンサンブルを構成する声部の関わりの変化と曲想の変化との関わりに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。
本題材で扱う学習指導要領の内容	音楽Ⅰ　「Ａ表現」(2) 器楽 ア　器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を工夫すること。 イ　次の(ｱ)から(ｳ)までについて理解すること。 (ｳ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴 ウ　創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。 (ｲ) 他者との調和を意識して演奏する技能 (ｳ) 表現形態の特徴を生かして演奏する技能 〔共通事項〕(1) (本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素)「リズム」「テクスチュア」

題材の評価規準

【参考】国立教育政策研究所教育課程研究センター「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」
音楽Ⅰ「Ａ表現」(2) 器楽における評価規準の作成のポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・**［事項イの(ｱ)，(ｲ)，(ｳ)のうちいずれか一つ以上］**について理解している。【知識】 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な**［事項ウの(ｱ)，(ｲ)，(ｳ)のうちいずれか一つ以上］**を身に付け，器楽で表している。【技能】	**［音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成などのうち，その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素］**を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	**［その題材の学習に粘り強く取り組んだり，自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な，扱う教材曲や曲種等の特徴，学習内容など，生徒に興味・関心をもたせたい事柄］**に関心をもち，主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

［　］内は、題材で扱う学習内容に合わせて適切に選択した指導事項に置き換えたり、適切な文言を挿入したりする部分であるとされている。このことを踏まえ、本題材においては次のように評価規準を設定した。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知　様々な表現形態による器楽表現の特徴（※１）について理解している。 技　創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な他者との調和を意識して演奏する技能（※１）や、表現形態の特徴を生かして演奏する技能（※１）を身に付け、器楽で表している。	思　リズム及びテクスチュア（※２）を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	態　リズムアンサンブルを構成する声部の関わりの変化と曲想の変化との関わり（※３）に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

※１　下線部には本題材で取り扱う学習指導要領の内容に対応した文言に置き換えている。
※２　下線部には本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素として設定したものに置き換えている。
※３　下線部には本題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとしている意思をもったりできるようにするために必要な、生徒に興味・関心をもたせたい事柄を記載している。

指導と評価の計画（４時間）

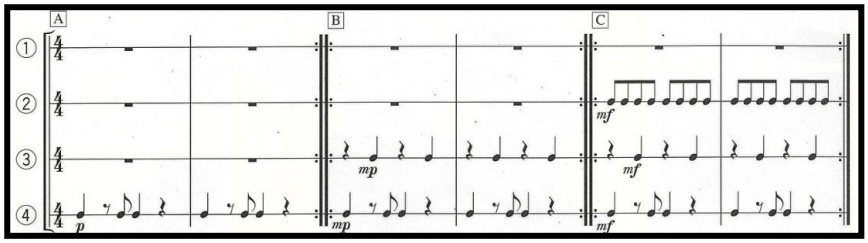
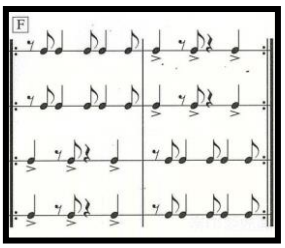
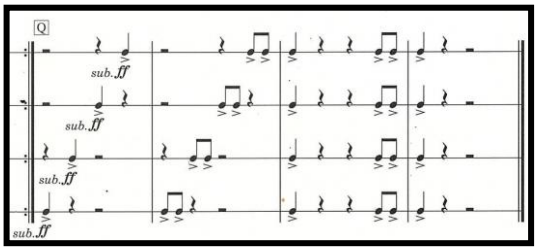
題材全体の学習指導		評価の位置付け		
		評価の観点と主な評価の時期		
時	主な学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・楽曲を聴き、聞き取った楽曲の特徴、感じ取った曲想等について記述する。（ワークシート１） ・担当声部ごとに練習をし、演奏の流れをつかむ。			
2	・全員で合奏し、声部同士の関係について確認する。 ・楽曲のもつ音楽の特徴について、知覚したことと感受したこととを関連付けて考える。（ワークシート 2）			
3	・表現を工夫する４人一組のチームごとに練習し、４重奏での演奏の流れをつかむとともに、表現形態ごとの表現の特徴を考える。（ワークシート 3-1） ・チーム内で意見交流をしながら、自身の担当声部について表現意図をまとめる。（ワークシート 3-2）	知	思	
4	・演奏を録音し、客観的に演奏を振り返りながら表現を創意工夫する。 ・演奏を発表、録音する。	技		態

観点別学習状況の評価の例

知識	「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント	「ワークシート 3-1」において、「クラッピングカルテット」を演奏して分かったことや気付いたことについて、表現形態ごとの器楽表現の特徴に触れながら、おおむね妥当な内容を書いている。 【生徒が作成したワークシート 3-1 の記載例】 **他のパートと一緒に演奏すると、いろいろなリズムが組み合わされることで、音楽の雰囲気が変わることがわかった。 手拍子しか登場しないけれど、変化のある音楽になっていると思った。**
	「十分満足できる」状況（A）と判断するポイント	下記の例の生徒は、４重奏の特徴がもたらす表現効果等に触れながら、自身の感じ取ったこと等について具体的に記述していることから、「十分満足できる」状況と判断できる。 【生徒が作成したワークシート 3-1 の記載例】 **ひとつひとつのリズムは単純だけど、リズムが互いの隙間を埋めあったり同じリズムで追いかけていったりすることで、音楽のもつノリや、力強さ、緊張感等の表情が生み出されていることがわかった。そして、みんなで合奏した時よりも4人で演奏した時の方がパート同士の関わりがよりはっきりと分かり、この曲の面白さがより伝わっていくと思った。**
	「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への働きかけ	担当声部のみを演奏したときや、全員で合奏したとき、４重奏のチームとして演奏したときにそれぞれ感じ取ったことの違いについて対話する等、表現形態による器楽表現の特徴に気付けるよう促す。

技能	「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント	演奏（器楽）の発表において、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な他者との調和を意識して演奏する技能や、表現形態の特徴を生かして演奏する技能について学習した内容が器楽表現に表れている。
	「十分満足できる」状況（A）と判断するポイント	本題材において学習した内容や、生徒自身の表現意図が十分に器楽表現に表れている。
	「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への働きかけ	生徒とともに実際に演奏するなどしながら、担当声部とその他の声部との関係に注目させ、学習目標の達成に必要な技能へと意識を向けられるようにする。

本題材では、「知識・技能」について、知識に関する評価場面を第３時に、技能に関する評価場面を第４時にそれぞれ位置付けている。知、技に分けて２つの評価規準を設定しているため、それぞれを評価した後、「知識・技能」として評価を総括する。

思考・判断・表現	「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント	「ワークシート 3-2」において、感じ取った曲想やリズム、テクスチュア等について触れながら、どのように演奏するかについて自分なりの思いや意図を書いている。 【生徒が作成したワークシート 3-2 の記載例】※３番パート担当生徒の記載例 **最初の部分でパートの数が増えて盛り上がっていく部分では、他のパートにつられず自分のパートを叩いて揃えることでしっかりと盛り上げたい。B の2拍目と4拍目を叩くリズムは、4番パートをよく聞きながら、一緒に軽快な感じで演奏したい。** 
	「十分満足できる」状況（A）と判断するポイント	次の例の生徒は、楽曲のリズムやテクスチュアから生み出される効果に触れながら演奏にあたっての思いや意図を具体的に記述していることから、「十分満足できる」状況と判断できる。 【生徒が作成したワークシート 3-2 の記載例】※３番パート担当生徒の記載例 **F の部分では二つのリズムが互いの隙間を埋めあうことで生まれる力強さを十分に出したい。アクセントから生まれるリズムのノリを4番パートと一緒にリードし、他のパートとも共有して、勢いのある音楽にしたい。** **最後の Q の部分では、同じリズムを一拍ずつずらして演奏することによって一体感をもって曲が締めくくられているので、自分の前に叩く4番パートの手の叩き方や響かせ方をよく聴いて、揃えることにより曲の終止感を強め、気持ちよく終わりたい。**  
	「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への働きかけ	前時までのワークシートへの記述等をもとにしながら、生徒とともに演奏したり、ふさわしい表現について対話したりして、思いや意図がもてるように促す。

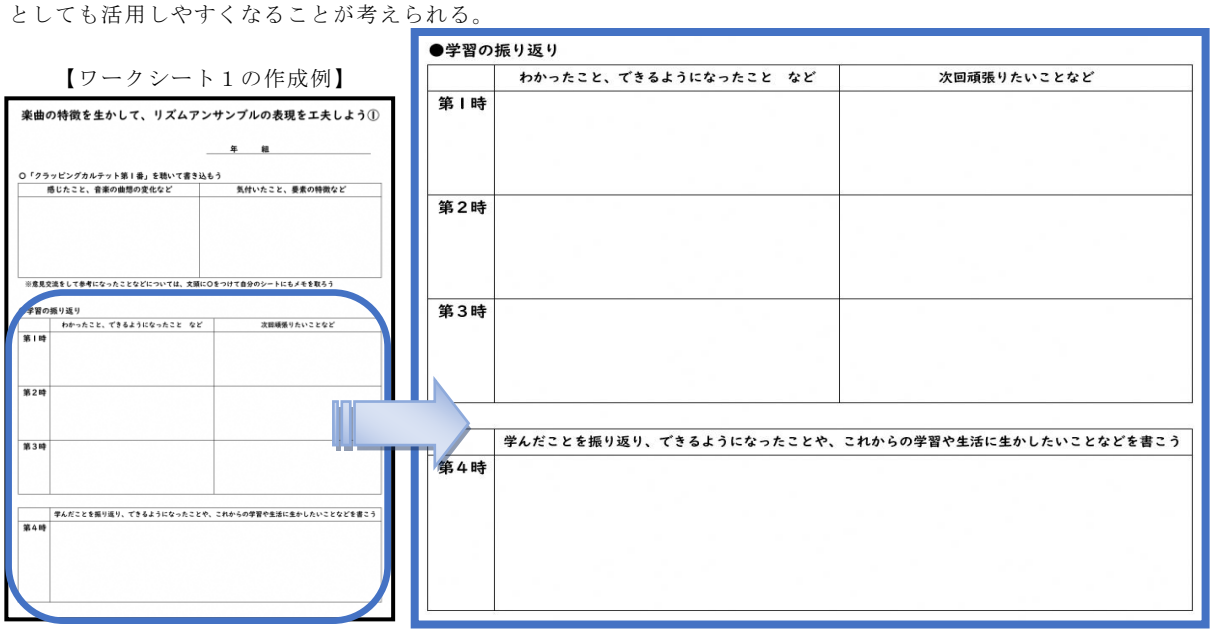
主体的に学習に取り組む態度	「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント	・各時の学習活動において、生徒の活動の様子、発言やつぶやき等を観察する。例えば、本題材の第１時であれば、『クラッピングカルテット』を聴き、聞き取った楽曲の特徴、感じ取った曲想等について記述する場面で、自分の言葉でワークシートに記述したり他者に伝えたりしているか」、「担当声部ごとに練習をし、演奏の流れをつかむ場面で、自身の担当声部について演奏に必要な技能を身に付けようと取り組んでいるか」といった観点で観察することが考えられる。 ・ワークシート１～ワークシート 3-2 の記述内容から、生徒が知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて、粘り強く取り組んでいるか、自らの学習を調整しながら学習を進めようとしているかについて評価し、観察では見取ることができなかった生徒の取組の状況を補完的に扱いながら、第４時に総括的に評価する。 ・それぞれのワークシートに「学習の振り返り」の欄を設け、各時間の自己の学習を振り返り、自身の良かった点や改善点等について記述することや、次の学習に見通しをもって取り組めるような内容を記述することをあらかじめ指導する。
	「十分満足できる」状況（A）と判断するポイント	・観察において、グループでの演奏の際にグループでの演奏についてうまくいっていない点を他の生徒に伝えることによって課題を提供したり、表現意図をまとめる際に声部同士の関わりについて他の生徒と考えを伝えあったりしながら、学習に協働的に取り組んでいる様子が窺える。 ・ワークシート１～ワークシート 3-2 において、発展的な課題をもちながら学習している様子や、難しいと感じたこと等についてその要因を考えながら記述し、自らの学習状況を把握するとともに、自己の学習を調整しながら取り組んでいる状況等を見取ることができる。
	「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への働きかけの例	・例えば、題材の第３時における「チーム内で意見交流をしながら、自身の担当声部について表現意図をまとめる」学習活動において、活動が自身の演奏を創意工夫することに向かっていない生徒に関しては、実際に演奏したり他の生徒との対話を促しながら、自身の担当声部とその他の声部との関わりについて考えさせたり、気付かせたりしながら、学習の進め方等について見通しをもてるようにする。 ・それぞれのワークシートの「学習の振り返り」を記述する際に、適切な自己評価ができていない生徒に対しては、本時の学習のねらいに沿って、振り返る内容を確認させ、本時の活動の様子について質問したり、その時間のワークシートへの記述等を見直すように助言したりするなどして、ねらいに沿った振り返りができるようにする。

実際の評価に当たっては、ここに示した主な評価方法以外にも、ワークシートだけでは見取りきれない面を観察によって補完する等の取組が考えられる。

【ワークシートの作成例】

次のように、学習の振り返りの記述欄をワークシート１にまとめておくことによって、生徒が毎時間の学習の初めにも前時までの記述に目を通しやすくなり、課題を明確に意識しながら学習に取り組むことが期待できる。また、教師にとっても生徒の学習の過程や成長の姿等を見取りやすくなり、主に「主体的に学習に取り組む態度」の評価資料としても活用しやすくなることが考えられる。

【ワークシート１の作成例】



⑵ 美術Ⅰの計画例

1　題材名　「マスクのある自画像～“自分らしさ”を求めて～」

2　内容のまとまり
「絵画・彫刻「A表現」⑴、〔共通事項〕」及び「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」、〔共通事項〕」

3　題材の概要
突然のコロナ禍での生活の変化により影響を受けた自分自身を見つめ、感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから表したい自分を思い描いて主題を生成し、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しながら、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、自分らしさをよりよく表現するための構想を練る。材料や用具の特性を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表す。また、美術作品や完成した生徒同士の作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。

4　生徒作品例

5　関連する学習指導要領の内容
○「A表現」
⑴ 絵画・彫刻
絵画・彫刻に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想
(ｱ) 自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。
(ｲ) 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。
イ 発想や構想したことを基に、創造的に表す技能
(ｱ) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。
(ｲ) 表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すこと。
○「B鑑賞」
⑴ 鑑賞
鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞
(ｱ) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者への心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。
○〔共通事項〕
⑴ 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　造形の要素の働きを理解すること。
イ　造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。

6　題材の目標
⑴ 「知識及び技能」に関する題材の目標
・形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイ

メージや作風などで捉えることを理解する。（〔共通事項〕）
・意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表す。（「A表現」⑴イ）

⑵「思考力・判断力・表現力等」に関する題材の目標
・自己を見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練る。（「A表現」⑴ア）
・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。（「B鑑賞」⑴ア(ｱ)）

⑶「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標
・主体的に自分を見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとする。
・主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい人物像などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

7　「題材の評価規準」の作成

国立教育政策研究所発行の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」によると、題材の評価規準は、実施する内容のまとまりごとに「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を基に該当する箇所（**ゴシック体**）を、題材の内容に合わせて下線部のように変更したり、複数の「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を組み合わせたりして作成する。

事例「マスクのある自画像」の題材と関連する「内容のまとまりごとの評価規準（例)」

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
・**造形の要素の働き**を理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風**、様式**などで捉えることを理解している。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生か**している**。 ・表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。	・**自然や**自己**、生活など**を見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し**ている**。 ・表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	・主体的に**絵画・彫刻**の表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品**や美術文化**の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

事例「マスクのある自画像」の題材の評価規準

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
知　形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 技　意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。	発　自己を見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 鑑　造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	態表　主体的に自分を見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。 態鑑　主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい人物像などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

知＝「知識・技能」の知識に関する評価規準、技＝「知識・技能」の技能に関する評価規準、発＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、態表＝表現における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準、態鑑＝鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準を表す。

8　指導と評価の計画（16 時間）

時	●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法・留意点等
1 2	**1　作品の鑑賞**（2時間） ●美術作品から、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。 ・人物像をテーマにした複数の美術作品をグループで鑑賞し、作品から感じ取ったことや、主題と表現の関係や意図と工夫などについて考え根拠をもって批評する。 ●造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることについて理解する。 ・形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージ等で捉えることを理解する。	知 ↓	鑑 ↓ ： 鑑	態鑑 ↓ ： 態鑑	鑑 作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさを感じ取ったり、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考えたりして、見方や感じ方を深めているかどうかを評価する。【発言の内容、ワークシート】 態鑑 主体的に作品を鑑賞して、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考えようとしたりするなどの学習に取り組む態度を評価する。【活動の様子、ワークシート】
3 4 5 6	**2　発想や構想**（4時間） ●主題を生成する。 ・自己について考察し、感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成する。 ●主題を基に構想を練る。 ・生成した主題を基に、表現形式の特性の生かし方、表情やポーズ、配色や構図などについて考え、ワークシートに整理したり、アイディアスケッチを描いたりして創造的な表現の構想を練る。		発 ↓ ： 発	態表 ↓ ： 態表	発 主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っているかどうかを暫定的に評価し、「3　制作」で再度評価を行う。【ワークシート、アイディアスケッチ】 態表 主体的に発想や構想の活動に取り組み、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、生成した主題をよりよく表すために創造的に構想を練ろうとする態度を評価する。【活動の様子、ワークシート、アイディアスケッチ】
7 8 9	**3　制作**（8時間） ●発想や構想したことを基に創造的に表す。 ・発想や構想したことに応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表す。また、制	技 ↓	発 ↓	態表 ↓	知・技 作品から材料や用具の特性の生かし方、表現方法の創意工夫、主題を追求して表しているかなどを見取るとともに、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかをあわせて見取り、知と技を知・技として一体的に評価する。【作品、ワークシート、アイディ

10 11 12 13 14	作の途中に相互鑑賞の活動を行い、他者の作品を見たり表現の意図を説明したりすることにより、表したいものを明確にしていくなどをしながら作品を完成させる。	： 知・技	： 発	： 態表	アスケッチ】 発 主題の変化や材料や用具の選定、配色計画などの構想を含めて、発想や構想を再度見取り評価する。【作品】 態表 主体的に制作に取り組み、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表そうとしている態度を評価する。【活動の様子、作品】
15 16	**4 鑑賞**（2時間） ●生徒作品や美術作品などを鑑賞し、見方や感じ方を深める。 ・お互いの作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことなどから根拠をもって話し合う。 ・題材の冒頭で鑑賞したものと異なる美術作品を鑑賞し、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて、表現の学習活動で学んだことを関連させて考え、見方や感じ方を深める。	知 ↓	鑑 ↓	態鑑 ↓ ： 態鑑	態鑑 主体的に作品を鑑賞して、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考えようとしたりしているかを評価する。【活動の様子、ワークシート】
〈授業外：題材の終了後〉 ※記号等の表記について ・□ は、学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や教師の指導改善につなげるために用いる「題材の評価規準」を示す。 ・□ は、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる「題材の評価規準」（再確認のための評価も含む）を示す。 ・「**ゴシック体**」は、題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる評価についての評価方法や留意点を示す。 ・【　】は、評価の方法や生徒の学習の実現状況を見取るための資料を示す。	： 知・技	： 鑑 ： 発		知・技 完成作品や発想や構想、鑑賞のワークシートなどから知・技の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート、アイディアスケッチ】 鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えて、見方や感じ方を深められているかどうかを見取り評価する。【ワークシート】 発 発想や構想の段階でのワークシート等を完成作品とあわせて主題の変化や配色計画などを再度見取り、必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート、アイディアスケッチ】

9　観点別学習状況の評価の進め方

(1) 本事例における指導と評価の流れ

<table>
<tr><th colspan="3">指導と評価の観点</th><th>指導と評価の進め方　　※【対応する指導と評価の時期】</th></tr>
<tr><td rowspan="2">知識・技能</td><td>造形的な視点を豊かにするための知識</td><td>知</td><td>【第一次（作品の鑑賞）、第二次（発想や構想）、第三次（制作）、第四次（鑑賞）、授業外】
・第一次では、人物像をテーマとした美術作品を鑑賞し、形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることについて理解ができるようにする。ここでの評価は、授業の中で、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげるために用いる。
・第二次の発想や構想をする場面や、第三次の制作において創造的に表す技能を働かせる場面、第四次における造形的なよさや美しさを感じ取ったり、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考えたりする鑑賞の場面のそれぞれにおいて、造形の要素の働きについて意識を向けて考えたり、大きな視点に立って対象のイメージを捉えたりできるようにし、表現及び鑑賞の学習を深めることができるようにする。
・第三次では、技の「意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している」ことを評価する際に、知の「形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している」ことをあわせて見取り、知と技を一体的に評価する。
・単に見たままどおりに表現するのではなく、発想や構想を基にして、表情やしぐさなどから自分らしさや全体のイメージを意識して画面を構成したり着彩したりすることが大切であり、評価もその視点から知と技を一体的に行うことが考えられる。
・造形的な視点について理解はしているが、創造的に表す技能が身に付いていないため、完成作品からだけでは知が見取れない生徒がいることも考えられることから、題材の終了後、発想や構想段階でのスケッチや鑑賞活動の際のワークシートの記述内容などで再確認を行うことが必要である。</td></tr>
<tr><td>技能に関する資質・能力</td><td>技</td><td>【第三次（制作）、授業外】
・第三次の前半では、発想や構想したことなどを基に意図に応じて材料や用具の特性を生かしたり、表現方法を創意工夫したりして表しているかどうかを見取る。
・実現できていない生徒に対しては、主題をもう一度見直させたり、表現の意図と材料や用具の特性とを関連させて再考させたりするなどの指導を行いながら、制作の中盤では工夫等ができていない生徒に重点を置いて指導を行う。
・制作の途中で相互鑑賞を行うことで、より表したいものを明確にしていくことができるようにする。
・完成段階での評価の後で作品に変化が起こる場合もあることから、授業後にワークシート等と見比べながら再度確認を行う。</td></tr>
<tr><td>思考・判断</td><td>発想や構想に関する</td><td>発</td><td>【第二次（発想や構想）、第三次（制作）、授業外】
・第二次の前半では、主題を生成することが重要であることから、生成できていない生徒の把握に重点を置き指導を行う。
・ここでの活動は、本学習を進めるうえで基盤となるものであり、発想や構想の質を高めるための重要な部分でもあることから、一人一人の生徒が主題を生成することができるように丁寧に見取り、指導をしていくことが大切である。
・第二次の後半では、主題を基に創造的な構想を練ることが重要であることから、発想や構想に関する資質・能力の評価規準を基に共通してつまずいている点を全体に指導したり、構想がまとまらない生徒に対し個別の指導を行いながら暫定的に評価する。</td></tr>
</table>

・表現	資質・能力		・第三次の制作の段階では、制作の中での主題の変化や材料や用具の具体的な選定、配色などの構想も作品から具体的に見取れるようになる。作品の完成が近付いてくる段階において、授業中での評価を確定させていく。 ・題材の終了後、再度評価を行い、授業中での評価より高まりがあった場合には修正を加える。
	鑑賞に関する資質・能力	鑑	【第一次（作品の鑑賞）、第四次（鑑賞）、授業外】 ・第一次では、複数の美術作品をグループで鑑賞し、作品から感じ取ったことなどを根拠をもって批評する活動を行う。 ・ここでは、鑑賞を通して、造形的なよさや美しさを感じ取ったり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めたりしているかどうかを見取り、評価はワークシートの記述や発言の内容から行う。 ・第一次の鑑賞の学習活動は、鑑賞に関する資質・能力を育成するとともに、第二次の発想や構想の学習活動との関連を図り、鑑賞で学んだことが発想や構想の学習に生かされるようにしている。そのため、生徒が使用するワークシートは第一次の鑑賞と第二次の発想や構想とを関連するように作成している。 ・第四次では生徒の作品や第一次と異なる美術作品を鑑賞し、題材を通して見方や感じ方を深めているかどうかについて評価する。
主体的に学習に取り組む態度	態鑑		【第一次（作品の鑑賞】 ・第一次では、美術作品を鑑賞する様子などを基に、生徒の鑑賞への関心や意欲等を把握することに重点を置く。生徒が造形的な視点を働かせるなどして主体的に作品を鑑賞し、作品のよさや美しさを感じ取ろうとしているかなどを見取り、評価を行う。
	態表		【第二次（発想や構想）】 ・第二次の前半では、主題を生成して創造的な表現の構想を練ろうとする発想や構想への意欲や態度を見取り、評価を行う。 ・後半では、造形的な視点を意識しながら心豊かに構想しようとしている意欲や態度を見取り、評価を行う。
	態表		【第三次（制作）】 ・第三次では、主題を追求して、主体的に意図に応じて創造的に表そうとする態度が高まるように指導することが大切であり、特に制作への意欲がもてない生徒や造形的な視点について意識できていない生徒に対し、個別に指導を行う。 ・中盤から終盤では、生徒が主体的に制作に取り組み、造形的な視点を意識しながら技能を働かせて創造的に表そうとしている態度を見取る。ここでは、よりよい表現を目指して試行錯誤する姿や、知識や技能を身に付けようと継続的に意欲を発揮している姿を評価することが大切なので、前半と後半の状況とを同等に扱い、総括に用いる評価として記録をしておくことなどが考えられる。
	態鑑		【第四次（鑑賞）】 ・第四次では、造形的な視点を豊かにするための知識について理解したことを活用しながら主体的に作品を鑑賞し、作品のよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしているかを見取り、記録をしておく。

(2) 導入時のワークシートと記載事項に対する評価の例

美術Ⅰ	●A 表現 (1)絵画・彫刻　●B 鑑賞 マスクのある自画像 ～“自分らしさ”を求めて	1年　組　番 氏名

1 それぞれの作品を鑑賞して、「作者の心情」や「表現の意図」について考えよう。

	質　問	Aの作品
1	・何が描かれていますか？なるべく沢山、答えてください。	斜めに構えた男性。視線はこちらを向いている。背景に渦の模様。
2	・あなたが感じた「造形的なよさや美しさ」や「作者の思いや願い」などについて想像して答えてください。	全体的に暗い感じがして、人物には心配事があるように思った。
3	・作者は、自分の「思いや願い」などを表現するために、どんな工夫をしていると思いますか？	背景の模様や暗い色を用いて、不安な気持ちを表現している。
4	・上記2と3は、作品のどんなところから感じたり考えたりしましたか？作品の部分と全体に着目してまとめてください。	不安な気持ちは、人物の表情や背景の模様、全体の暗い色彩からも、そう感じさせると思った。

・「おおむね満足できる」状況Bと判断できる。
・これに加え「深い青や緑の色や背景の渦から不安や悲しさを感じた。」等の記載があれば「十分満足できる」状況Aと判断できる。
・かたちや色彩、それらから受ける印象に関する記載がない場合は「努力を要する」状況Cと判断し、着目する視点などについて気付かせるなど、個別に手立てを行う。

・Bと判断できる。
・これに加え「深い青や緑に加えて、人物の真剣な眼差しや、背景の空気がよどんでいるような渦の形から、心が穏やかではない不安や怒りの感情も感じた。」等の記載があればAと判断できる。
・作品の部分及び全体から受ける印象に関する記載がない場合は、Cと判断し、個別に手立てを行う。

2 自分の「自分らしさ」について考え、「表現の構想」を練ろう。

	質　問	回　答
1	・自分自身に対する「思いや願い」なども含め、あなたの思う「自分らしさ」について、考えをまとめてみよう。	・将来の目標が定まらない中で、何とかしようと思いながら毎日を過ごしている。 ・自分は優柔不断だと思うことがある。 ・時々、自分が人間ではない動物だったらと思うことがある。
2	・自画像を表現するためのイメージや形体や色彩、構成などについて、部分と全体に着目して構想を練ってみよう。	・自分は真っ暗な世界の中にいるような気分なので、背景もそのように表したい。 ・好きな動物を自分と一緒に表現したいと思う。

・Bと判断できる。
・自分を客観的に分析し、その上でより具体的な構想が練られていればAと判断できる。
・この時点で構想がまとまらない場合はCとし、手立てを行う。

●第一次の鑑賞の学習活動は、鑑賞に関する資質・能力を育成するとともに、第二次の発想や構想の学習活動との関連を図り、鑑賞で学んだことが発想や構想の学習に生かされるようにしている。
●このことから、生徒が使用するワークシートは第一次の鑑賞と第二次の発想と構想とを関連付けて作成している。

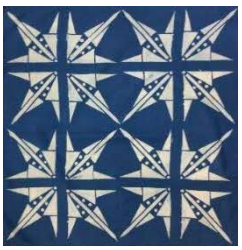
(3) 工芸Ⅰの計画例

1　題材名　「日常生活を演出する ～連続文様によるハンカチのデザイン～」

2　題材の概要

型染めには一枚の型紙を繰り返し使うことで新しい文様をつくり出す魅力がある。本題材では使用する人や場を考えて、ハンカチの文様をデザインする。一辺が55㎝の綿のハンカチに対して、その16分の１の大きさの型紙を使用し、ハンカチ全体の構成を考えるために、形の繰り返し方や回数を工夫する。文様部分を糊で防染して白く残るように加工することを理解し、伝統的な型染めの技法を体験する。日本や世界の文様を鑑賞し、地域や文化の違いによる文様の多様性に興味や関心をもつとともに、作品を展示したり日常生活で使用したりすることで、他者との違いや発想のよさについて交流し、見方や感じ方を深める。

3　生徒作品例



4　関連する学習指導要領の内容

○「A表現」

(2) 社会と工芸

社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　社会的な視点に立った発想や構想

(ｱ) 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること。

(ｲ) 使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練ること。

イ　発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能

(ｱ) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。

(ｲ) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。

○「B鑑賞」

(1) 鑑賞

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　工芸作品などの見方や感じ方を深める鑑賞

(ｲ) 社会的な視点に立ってよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。

○〔共通事項〕

(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　造形の要素の働きを理解すること。

イ　造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。

5　題材の目標

(1)「知識及び技能」に関する題材の目標

・形や色彩、素材、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。（〔共通事項〕）

・染色の制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすとともに、手順や技法を吟味し、創造的に表す。（「A表現」(2)イ）

(2) 「思考力・判断力・表現力等」に関する題材の目標

・使う人の願いや心情、生活環境から生活を心豊かに演出するハンカチを社会的な視点に立って発想し、使用する人や場などに求められる機能と美しさの調和を考え、制作の構想を練る。(「A表現」(2)ア)

・社会的な視点に立って、ハンカチの文様の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と染色の制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1)ア(イ))

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

・主体的に社会的な視点に立って使う人の願いや心情、生活環境から生活を心豊かに演出する表現の創造活動に取り組もうとする。

・主体的に社会的な視点に立って作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の願いや制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

6 「題材の評価規準」の作成

国立教育政策研究所発行の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」における「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を基に該当する箇所（**ゴシック体**）を、題材の内容に合わせて関連する下線部のように変更したり、「複数の内容のまとまりごとの評価規準（例）」を組み合わせたりして作成する。

事例「日常生活を演出する」の題材と関連する「内容のまとまりごとの評価規準（例）」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・**造形の要素の働き**を理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風**、様式**などで捉えることを理解している。	・使う人の願いや心情、生活環境**など**から心豊か**な**発想**を**し**ている**。 ・使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練っている。	・主体的に**社会と工芸**の表現の創造活動に取り組もうとしている。

⇩

事例「日常生活を演出する」の題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩、素材、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 技 染色の制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすとともに、手順や技法を吟味し、創造的に表している。	発 使う人の願いや心情、生活環境から生活を心豊かに演出するハンカチの文様を社会的な視点に立って発想し、使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練っている。 鑑 社会的な視点に立って連続文様の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と染色の制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めている。	態表 主体的に社会的な視点に立って使う人の願いや心情、生活環境から生活を心豊かに演出する表現の創造活動に取り組もうとしている。 態鑑 主体的に社会的な視点に立って作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の願いや制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

知＝「知識・技能」の知識に関する評価規準、技＝「知識・技能」の技能に関する評価規準、発＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、態表＝表現における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準、態鑑＝鑑賞の「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準を表す。

7　指導と評価の計画（13 時間）

●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法・留意点等
1　作品の鑑賞（2時間） ●日本や世界の様々な地域で使われている文様を取り上げ、文化の違いや、作者の意図と制作過程における工夫や素材の生かし方について考え、見方や感じ方を深める。 ・型染めによる連続文様の作品をグループで鑑賞し、社会的な視点に立って感じ取ったことや、作者の心情や意図と制作過程における工夫などについて考えたことなどから根拠をもって批評する。 ●造形の要素の働きや，全体のイメージや作風などで捉えることについて理解する。 ・作者の意図と制作過程における工夫や素材の生かし方などから、形や色彩、素材、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。	知 ↓	鑑 ↓ ： 鑑	態鑑 ↓ ： 態鑑	知 鑑賞の学習活動を通して、作者の意図と制作過程における工夫などから、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかを見取る。【発言の内容、ワークシート】 鑑 態鑑 社会的な視点に立って作品などの造形的なよさや美しさを感じ取ったり、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方について考えたりして、見方や感じ方を深めているかどうかと、学習活動に取り組む態度を見取る。 【発言の内容、ワークシート、活動の様子】
2　発想や構想（5時間） ●使う人や場面を考え、心豊かな発想をする。 ・ハンカチを使用する様々な場面を想像し、使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をする。 ●機能と美しさの調和を考え、制作の構想を練る。 ・形や色彩、素材などの効果や、全体のイメージ、染色の技法の特徴などについて考え、使用する人や場などに求められる機能と美しさの調和などのコンセプトについてワークシートに整理したり、アイディアスケッチや図面を描いたりして制作の構想を練る。		発 ↓ ： 発	態表 ↓ ： 態表	知 作品の鑑賞で学習した造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることが理解できているかを見取る。【発言の内容、ワークシート、活動の様子】 発 態表 ハンカチを使う人や場面を考え、心豊かに発想をしたり、使用する人や場などに求められる機能と美しさの調和を考え制作の構想を練ったりしているかを見取る。【ワークシート、アイディアスケッチ、図面】
3　制作（5時間） ●発想や構想をしたことを基に創造的に表す。 ・型彫り、糊置きなど、型染めの技法や制作方法を踏まえ、発想や構想をしたことを基に材料や用具を生かしながら手順や技法を吟味して創造的に表す。また、制作途中で相互鑑賞の活動を行い、他者の作品を見たり制作の意図を説明したりすることにより、表したいものを明確にしながら、制作を進める。その後、作品を染色し完成させる。	技 ↓ ： 知・技	発 ↓ ： 発	態表 ↓ ： 態表	知・技 作品から型染めの技法による制作方法踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味し、創造的に表しているかなどを見取るとともに、作品から造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかをあわせて見取り、知と技を知・技として一体的に評価する。【作品、ワークシート、アイディアスケッチ】 発 態表主体的に制作に取り組み、制作意図に応じて材料や用具を生かし、それぞれの工程の手順や技法などを吟味しながら創造的に表そうとしているかを見取る。この段階で、構想がまとまらない生徒を中心に、再度、使う人の願いや心情、生活環境から考えさせる。【活動の様子、制作途中の作品】
4　鑑賞（1時間） ●生徒作品を相互に鑑賞し、見方や感じ方を深める。 ・社会的な視点に立って生徒作品を相互に鑑賞し、作者の心情や意図と型染めの制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、感じたことや考えたことなどから根拠をもって批評し合う。 ・完成作品のハンカチを日常生活で使用後、制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて感想を交流し、見方や感じ方を深める。	知・技 ↓ ： 知・技	鑑 ↓ ： 鑑	態鑑 ↓ ： 態鑑	鑑 鑑態 社会的な視点に立って生徒同士で、制作した作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と染色の制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めているかどうかと、学習に取り組む態度とを見取る。【発言の内容、ワークシート、活動の様子】 知・技 完成作品や発想や構想、鑑賞のワークシートなどから知・技の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート、アイディアスケッチ、図面】

※記号の凡例は、美術Ⅰの計画例 11 ページを参照。

８　本事例における観点別学習状況の判断の例

題材の評価規準		○Bの具体例　◎Aの具体例　■Cへの手立て
知	形や色彩、素材、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	○形や色彩、素材、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果を理解しようとし、造形的な特徴などを基に全体のイメージで捉えようとしている。 ◎形や色彩、素材、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果を多様な視点から理解したり、幅広い視野に立って造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解したりしている。 ■形や色彩、素材、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果をより実感的に理解できるよう、具体例を示しながら考えさせる。
技	型染めの制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすとともに、手順や技法を吟味し、創造的に表している。	○意図に応じて材料や用具の特性を効果的に生かす努力をし、手順や技法について試行錯誤を重ね、意図の実現を様々な可能性から追求し表現しようとしている。 ◎意図に応じて多様な視点から材料や用具の特性を効果的に生かすとともに、手順や技法について試行錯誤を重ねて吟味し、意図の実現を様々な可能性から追求して創造的に表している。 ■材料や用具の生かし方や様々な表現方法について実演を行いながら説明し、試させたり、発想や構想をしたことを確認させて生徒自身が表したいことを整理させたりする。
発	使う人の願いや心情、生活環境から生活を心豊かに演出する型染めによるハンカチを社会的な視点に立って発想し、使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練っている。	○使う人の願いや心情、生活環境などについて考え、生活を心豊かに演出する型染めによるハンカチを社会的な視点に立って発想し、表現形式の特性を生かし、知識を活用しながら、使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、創造的な制作の構想を練る努力をしている。 ◎使う人の願いや心情、生活環境などについて深く考え、生活を心豊かに演出する型染めによるハンカチを社会的な視点に立ってより豊かに発想し、よりよく表現形式の特性を生かし、知識を効果的に活用しながら、幅広い視点に立って使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、創造的な制作の構想を練っている。 ■身近な人々が使用することを手がかりに、社会的な視点に立って考えさせたり、鑑賞して感じ取ったことや考えたことなどを振り返らせたりしながら、制作意図と造形の要素の効果や使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和について考えさせる。
鑑	社会的な視点に立って型染めによるハンカチの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図とハンカチの制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めている。	○社会的な視点に立って、造形的なよさや美しさを感じ取り、知識を効果的に活用しながら作者の心情や意図と型染めの制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などを関連付けながら考え、見方や感じ方を深めようとしている。 ◎社会的な視点に立って、造形的なよさや美しさをより深く感じ取り、知識を効果的に活用しながら作者の心情や意図と型染めの制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などを関連付けながら考え、自分としての根拠をもちながら見方や感じ方を深めている。 ■生徒自身が発想したことから作品を見つめさせたり、具体的に社会的な視点を示して作者の心情について考えさせたりすることや、自己の表現の活動を振り返らせて、表現で学んだことと関連させながら見方や感じ方が深められるようにする。
態表	主体的に社会的な視点に立って使う人の願いや心情、生活環境から生活を心豊かに演出する表現の学習活動に取り組もうとしている。	○自ら進んで表現の学習活動に取り組み、よりよい制作を目指して、知識を効果的に活用し、社会的な視点に立って使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和について考えようとしたり、意図に応じて材料や用具を効果的に生かす努力をし、手順や技法を吟味したりして創造的に表そうとしている。 ◎より主体的に自ら進んで表現の学習活動に取り組み、よりよい制作を目指して、知識を効果的に活用し、社会的な視点に立って使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和について深く考えようとしたり、意図に応じて材料や用具を効果的に生かし、手順や技法を吟味したりして粘り強く創造的に表そうとしている。 ■使う人や場面、求められる条件などを確認させて、制作の見通しをもたせたり、生徒自身が表したいことを整理させたりすることや、教師から示した様々な制作方法について、それらの生かし方から構想を練らせたり、表すことができるようにしたりする。
態鑑	主体的に社会的な視点に立って作品などの造形的なよさや美しさを感じとり、作者の願いや制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○自ら進んで鑑賞の学習活動に取り組み、作品などを見つめ、知識を活用し、社会的な視点に立って作者の心情や意図と制作過程の工夫などについて幅広く考え、見方や感じ方を深めようとしている。 ◎より主体的に自ら進んで鑑賞の学習活動に取り組み、作品などを深く見つめ、知識を効果的に活用し、社会的な視点に立って作者の心情や意図と制作過程の工夫などについて幅広く考え、粘り強く見方や感じ方を深めようとしている。 ■身近な環境を手がかりに社会的な視点に立って見方や感じ方を深められるようにしたり、表現の学習活動で学んだことを関連させ、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方などについて気付かせたりする。

(4)　書道Ⅰの計画例

単　　元　　名	先人（地域）が残した俳句を漢字仮名交じりの書で表現してみよう
内容のまとまり	書道Ⅰ「A表現」(1)ア(ｳ) イ(ｲ) ウ(ｲ) 「B鑑賞」(1)イ(ｱ)　及び〔共通事項〕(1)ア
使　用　教　材	新戸部流木俳句集
単 元 の 目 標	(1)「知識及び技能」 名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解し、制作意図と関連させながら、書の表現性、表現効果について理解するとともに、俳句の意味や情景に基づいた効果的な表現をするための基礎的な技能を身に付ける。 (2)「思考力、判断力、表現力等」 漢字仮名交じりの書の特質に基づく表現と、俳句からの側面についても考え、意図に基づいて構想し表現を工夫し、創造された作品の意味や価値について、生活や社会との関わり等から考え、書の美を味わい捉える。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 漢字仮名交じりの書の特質に基づいて表現することや、書のよさや美しさを感受し、作品や書の意味や価値等について考えながら鑑賞することに主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛する心情を養う。
本単元で扱う学習指導要領の内容	「A表現」(1) 漢字仮名交じりの書 ア　知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ｱ)から(ｳ)までについて構想し工夫すること。(思考力・判断力・表現力) (ｳ) 名筆を生かした表現や現代に生きる表現 イ　次の(ｱ)及び(ｲ)について理解すること。(知識) (ｲ) 名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり ウ　次の(ｱ)及び(ｲ)の技能を身に付けること。(技能) (ｲ) 漢字と仮名の調和した線質による表現 「B鑑賞」(1) イ　次の(ｱ)から(ｴ)について考え、書のよさや美しさを味わって捉えること。 (ｱ) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり 〔共通事項〕(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。(知識)

【参考】国立教育政策研究所教育課程センター「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」
科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」の例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式，書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに，書の伝統に基づき，作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け，表している。	書のよさや美しさを感受し，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

高等学校芸術科（書道）の評価の観点の趣旨によると、「知識・技能」については、「書の表現の方法や形式、書表現の多様性への理解を深める知識」と「効果的・創造的に表す技能」に整理していることから、２つに分けて示している。また、「思考・判断・表現」は、「A表現」において育成する構想や表現の工夫に関する資質・能力と、「B鑑賞」において育成する鑑賞に関する資質・能力とに整理しているが、構想や表現の工夫と、鑑賞の双方に重なる資質・能力の育成を重視していることから、まとめて示している。これらの３観点を、単元の学習内容に即した適切な文言を挿入し、単元の評価規準を作成する。

■単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①俳句と書の表現の方法や用筆・運筆との関わりについて幅広く理解している。 技作品を効果的に表現するための ②漢字と平仮名が調和する技能や線質による表現をするための基礎的な技能を身に付け、表している。	思③名筆を拠り所に、書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、③現代に生きる書の美を味わい捉えたりしている。	態表 態鑑書のよさや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、漢字仮名交じりの書の特質に基づく表現及び鑑賞の幅広い学習活動に主体的に取り組もうとしている。

※下線部①には、本単元で取り扱う学習指導要領の内容に対応した「A表現」の知識についての文言を挿入している。
※下線部②には、本単元で取り扱う学習指導要領の内容に対応した「A表現」の技能についての文言を挿入している。
※下線部③には、本単元で取り扱う学習指導要領の内容に対応した「A表現」の思考･判断･表現についての文言を挿入している。

「知識」は、「A表現」と「B鑑賞」に関わる観点であり、本単元では、名筆や現代の書の表現について鑑賞する活動を設定しているとともに、表現の活動の中で相互鑑賞を併せて行っているため、学習指導要領に示した「B鑑賞」に関する評価の観点の趣旨に基づき、本単元で扱う創作の学習内容と関連させて、評価規準を作成した。
「A表現」に関しては、〔共通事項〕の指導内容と関連させ、「B鑑賞」についても〔共通事項〕の指導事項を基に評価規準を作成した。「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」は、同様の視点から評価規準を作成した。

■各授業時間の指導のねらい、生徒の学習活動、重点及び評価方法

時間	小単元等	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	俳人の墨跡から学ぶ	俳人の墨跡を鑑賞し、書と俳句が相互に関連し合っていることの価値やよさについて理解し、考えることができるようにする。	知	◎	知 思 ワークシート
2	地域を題材とした俳句づくり	地域を題材とした俳句を鑑賞し、地域に根ざした俳句を作ることができるようにする。	思	◎	思 ワークシート
3・4	書の表現とその効果	漢字仮名交じりの書の様々な表現技法とその効果について理解し、自作の俳句と書が関連し合うように構想し、表現できるようにする。	知・技・思	● ◎	知 技 思 態表 作品 ワークシート
5	作品鑑賞、意見交流	他者との作品の共有･相互鑑賞を通して、それぞれの表現の意図、構想、表現の工夫や書のよさについて、見方・考え方を働かせて捉え、考えることができるようにする。	思・主	●	思 態表 態鑑 ワークシート

◎…指導に生かす評価　　●…記録に残す評価

次ページでは、小単元「書の表現とその効果」について、具体の指導及び評価計画を示す。この場面では、漢字仮名交じりの書を通して、地域に根ざした俳句を書く学習活動を設定している。
具体的には、学習活動をより主体的なものとするため、俳人たちが残した句や墨跡からよさや味わいを感受したのち、生徒自らが創作した俳句を書として表現し、他の生徒との相互鑑賞を通じて俳句と書の関連性に着目させる。
なお、着色部分は、評価場面と観点について示したものである。

■３・４時間目における指導と評価の計画

本時の目標

・漢字仮名交じりの書の様々な表現技法とその効果を理解することができる。

・自作の句と書が関連し合うように構想し、表現できるよう工夫・改善することができる。

過程	学習活動	指導上の留意点	評価方法等
導入	○学習内容の確認 ・前時までの内容を確認する。	・自己の俳句作品を準備させる。	
展開①	○漢字仮名交じりの書の表現技法とその効果を理解する。 ・運筆・用筆の違いによって作品から受ける印象が異なることを理解する。 ・全体構成の違いによる表現効果や風趣を理解する。	・現代の書を鑑賞し、作品から受ける印象と運筆・用筆の関連についてグループで交流する。 ・現代の書の鑑賞を通して全体構成と表現効果や風趣との関連について理解する。	【評価の観点】 知 技 ワークシートの活用状況
展開②	○自作の俳句と書が関連し合うように工夫・改善しながら構想し、表現する。	・自作の俳句のイメージを膨らませ、教科書の例を参考にして書と関連するように運筆・用筆、全体構成を構想させる。 ・自らの意図に基いて表現できるよう濃墨・淡墨、複数のサイズの紙を用意する。	【評価の観点】 思 態表 作品とワークシートの活用状況 記録に残す評価 記録１
まとめ	○作品制作を振り返る。	・作品の制作過程を振り返り、自作の俳句と書を関連させるよう構想し、表現できたかについて振り返る。	【評価の観点】 態鑑 作品とワークシートの活用状況

■本事例における学習活動と観点別学習状況の評価の状況

観点	知識・技能			思考・判断・表現					主体的に学習に取り組む態度				
	知		技	思					態表		態鑑		
主な学習活動	墨跡、名筆・現代書の鑑賞	作品の構想（知識の活用）	作品制作（作品）	墨跡、名筆・現代書の鑑賞（作品の価値）	俳句づくり	構想・工夫（構築）	意見交換（構想・工夫の言語化）	自己評価	構想・工夫（表現の工夫）	作品制作（取り組む態度）	鑑賞（自作、相互鑑賞・墨跡、名筆・現代書の鑑賞）	意見交流（相互批評）	単元の学習のまとめ
1時限	◎			◎							・	・	
2時限	・			・	◎				・	・	・		
3・4時限	・	記①	記①	・		◎		・	・	・	・	・	
5時限		・	・			記②			記②			記②	

記…記録に残す評価を行う場面　　◎…指導に生かす評価を重点的に行う場面

・…展開における学習活動の有無（学習状況を適宜見取ることができる。）

■観点別学習状況の評価の例

<table>
<tr><td rowspan="5">知識・技能</td><td rowspan="3">知</td><td>「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント</td><td>名筆や現代の書の鑑賞及び表現の学習活動を通して学んだ、用筆・運筆、全体構成、用具・用材により生じる表現効果を生かし、自身の作品を構想している。

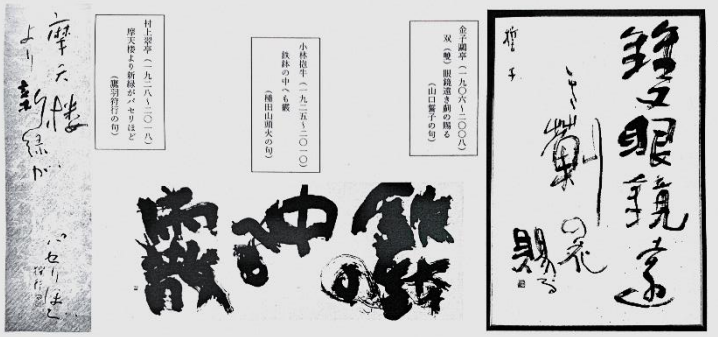
【生徒が作成したワークシートの記載例】
《表現の意図》力強い作品を書きたい。
《用筆・運筆》蔵鋒を用い、力強く、激しい雰囲気を目指す。
《全体構成》概形を三角形にする。</td></tr>
<tr><td>「十分満足できる」状況（A）と判断するポイント</td><td>自身の表現の意図に基づいて、用筆・運筆、全体構成、用具・用材により生じる表現との関わりを効果的に活用して構想している。

【生徒が作成したワークシートの記載例】
《表現の意図》白い息を弾ませながら厳寒の大地を逞しく駆け抜ける馬をイメージし、力強さや逞しさを書で表現したい。
《用筆・運筆》蔵鋒を用い、力強く、激しい雰囲気を目指し、直線を基調とした線で書く。
《全体構成》二つのまとまりに分け、「馬蹄の音」に焦点がいくように配字し、自然な潤渇の変化をつけ、行の流れや紙面の広がりを出したい。</td></tr>
<tr><td>「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への働きかけ</td><td>自身の構想の経緯、鑑賞した名筆及び現代の書の表現を振り返らせ、表現効果の捉え方を例示するなどして理解できるように支援する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">技</td><td>「おおむね満足できる状況」（B）と判断するポイント</td><td>漢字仮名交じりの書の特質に基づき、漢字と仮名の調和した線質等の漢字仮名交じりの書の特質に関わる諸要素を生かして効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、自身の表現の意図に基づいて表している。</td></tr>
<tr><td>「十分満足できる」状況（A）と判断するポイント</td><td>線質の調和をはじめ、漢字仮名交じりの書の特質に関わる諸要素とそこから生じる表現性、表現効果を活用して効果的に表現することを工夫する中で、技能を更に高め、効果的に表している。</td></tr>
<tr><td>「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への働きかけ</td><td>学習活動を振り返らせたり、表現の具体例を示したりすることで、自身の表現の意図、構想と関連付けて実感的に捉えて表せるように支援する。</td></tr>
</table>

思考・判断・表現	思	「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント	行や紙面全体構成等の様式について考え、見方・考え方を働かせ、既得の知識や技術を活用したり、名筆や現代の書の表現を生かしたりして、自身の表現の意図に基づいて構想・工夫し、適切に言語化している。また、鑑賞活動を通して、自他の作品、名筆や現代の書についてそのよさや美しさを実感的に感受し、適切に言語化している。
		「十分満足できる」状況（A）と判断するポイント	書を構成する要素の表現性とその表現効果の働きや生かし方について深く考え、自身の意図に基づく表現のために効果的に生かして構想・工夫している。また、鑑賞活動において創造された作品の意味や価値について根拠をもって実感的に捉え、深く考えている。
		「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への働きかけ	考える手立てや観点を示したり、意見交換を通して他者の意見を参考にしたりするなど、これまでの学習の中で身に付けた知識や技能と関連させながら、自身の構想・工夫の見直しと再構築に生かすことができるよう支援する。また、鑑賞活動においてこれまでの学習で身に付けた知識や技能と関連させながら創造された作品の価値について実感的に捉え考えられるように支援する。
主体的に学習に取り組む態度	態表	「おおむね満足できる状況」（B）と判断するポイント	漢字仮名交じりの書の特性に関わる諸要素を生かして効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、自身の表現の意図に基づいて表そうとしている。
		「十分満足できる」状況（A）と判断するポイント	漢字仮名交じりの書の特質に関わる諸要素とそこから生じる表現性、表現効果を活用して効果的に表現することを工夫する中で、技能を更に高め、効果的に表そうとしている。
		「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への働きかけ	学習活動を振り返らせたり、表現の具体例を示したりすることで、自身の表現の意図、構想と関連付けて実感的に捉えて表せるように支援する。
	態鑑	「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント	見方・考え方を働かせ、振り返ったり見通しを立てたりしながら、身に付けた知識や技能を活用して鑑賞活動に取り組む中で、作品や書の意味や価値について粘り強く主体的に考えようとしている。
		「十分満足できる」状況（A）と判断するポイント	見方・考え方を働かせ、作品や書の意味や価値等について根拠をもって捉え、深く考えるとともに、生活や社会との関わりや自身の人生とも関わらせて広い視野から書を捉えて深く考えようとしている。
		「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への働きかけ	鑑賞した名筆や現代の書、自身の取組の経緯を振り返らせ、既得の知識や技能を活用し、作品や書のよさ及び美しさを感受したり、書や文字の意味や価値等について主体的に考えたりできるように支援する。

【ワークシート例
（３～５時間目）】

漢字仮名交じりの書　ワークシート【現代書の鑑賞】



金子鷗平（一九〇六～二〇〇八）
双（一隻）眼鏡遠き蒲の飛る
（山口誓子の句）

小林俊平（一九二五～二〇〇）
鉄鉢の中へも蝕
（種田山頭火の句）

村上湖平（一九二八～二〇一八）
摩天楼より新緑がパセリほど
（黒澤行行の句）

【作品から受ける印象】
《用筆・線質》
《構成の特徴》

【作品から受ける印象】
【用筆・線質】
《構成の特徴》

【作品から受ける印象】
【用筆・線質】
《構成の特徴》

漢字仮名交じりの書【作品の構想】

年　組　番　氏名

自作の俳句

表現の意図
（こういう作品を書きたい）

意図に基づく構想

《用筆・運筆》

《参考にする古典とそのねらい》
古典名
ねらい（その古典の特徴から）

《全体構成》
作品の草稿

《用具・用材》
使用する用具
・紙…
・墨の濃さ…
その他、表現上工夫するところ

《作品制作の振り返り》

漢字仮名交じりの書　ワークシート【作品の共有・相互鑑賞】

年　組　番　氏名

《鑑賞方法》
①制作者が記入したワークシート【作品構想】を参照しながら作品を鑑賞する。
②《表現の意図、意図に基づく構想》には、作品が「表現の意図」と「意図に基づく構想」とを関連させて表現できているか評価する。また、作品から受けた印象や用筆・運筆、全体構成で優れていると感じた点について記入する。
③《表現の工夫と期待する効果》には、さらに表現の意図が伝わるようにするためにはどのような点を改善したらよいかアドバイスを記入する。

記入者①【　　】
《表現の意図（全体の印象）、意図に基づく構想》
《表現の工夫と期待する効果》

記入者②【　　】
《表現の意図、意図に基づく構想》
《表現の工夫と期待する効果》

記入者③【　　】
《表現の意図、意図に基づく構想》
《表現の工夫と期待する効果》

記入者④【　　】
《表現の意図、意図に基づく構想》
《表現の意図、意図に基づく構想》

【完成品の自己評価】
※表現の意図に基づいて運筆・用筆を表現できた。（５　４　３　２　１）
※表現の意図に基づいて全体構成を工夫し、表現出できた。（５　４　３　２　１）
【授業を通しての感想】